



少年時代の「夏の記憶」

校長 中山 徹

夏休みに入ります。昨年度の「豊玉二中だより7月号」で「夏の思い出、バレーボール」という題で、私の夏休みの部活動の思い出について書かせていただきました。

実は、もう1つ、夏休みに関しては、少年時代の忘れられない「記憶」があります。

小学校4年生の夏休み、叔母の住む佐賀県へ家族で出かけました。約1週間ほど滞在したと思うのですが、何日目かに長崎まで観光に出かけました。グラバー亭、めがね橋、出島跡などを訪れた後、父が「原爆資料館へ行ってみよう」と言い出しまして、家族4人でそこを訪れました。

展示してある資料は、4年生の私にとっては、「かなりきつい」内容であったように思います。原爆の熱線でグニャリと歪んだ鉄鍋がガラスケースの中に展示されていました。なぜか今でも脳裏に焼き付いています。

子供心に、原爆の恐ろしさ、そして戦争の悲惨さを感じ取ったように思います。

あのとき、なんで父が原爆資料館に行くことを提案したのか、またなぜ母も同意したのか、子供の頃にはそんなことを考えることなどありませんでした。

でも、その後大人になって…、その時の両親の想いを、私も十分理解することができたように思います。

父は19歳で陸軍の兵士となり、苦難の中、中国で終戦を迎えた人です。戦争に関する体談などは、ほとんど聞かせてくれませんでした。戦争を憎む気持ちは人一倍強かったと思いますが、なぜかそのことを声高に言う人ではありませんでした。

母は戦時中、東京に住んでいました。繰り返される空襲で、多くの人が死んでいくのを目の当たりにしたそうです。年老いてからも「戦争だけは絶対にいやだ」と繰り返し述べていました。

両親は、私にとって、人生について、また世の中について考えさせてくれる「良き先輩」でもありました。心から感謝しています。

8月6日広島、8月9日長崎、それぞれ原爆が落とされた日です。毎年、平和記念式典の様子がテレビで放映されています。ご家族で平和について話し合い、考えを深め合う機会になるのでは、と思います。

42日間の夏休みが始まります。

暑い日が続くとは思いますが、生徒たちにとって充実した日々となりますように…。

